

「活動を終えて」

春江病院 濱 雅理

1/12～1/15 まで第 2 班として、春江病院より災害支援看護師として輪島高校へ赴きました。輪島高校への派遣は私たちが初めてで、教室や体育館が避難場所になっており、基礎疾患を抱えてる方、高齢者や若い方など様々な年齢層の方がいらっしゃいました。

私たちが特に注意して関わっていたことが感染予防と感染拡大を防ぐことでした。インフルエンザとコロナ、感染性胃腸炎の感染者を別々の教室に隔離し、その方々の健康観察や環境整備、配膳や下膳などの身の回りの援助をしました。感染性胃腸炎の方には嘔吐セットの作成やトイレ介助などに関わりました。

体育館に避難していた方々への介入は被災後 13 日も経過した 1 月 13 日に、私たちが初めての介入となりました。初めて体育館に入った時は「今更何しに来たんだろう？」と被災者さんの視線が冷ややかに感じました。まず、約 100 名以上の被災者の方々の氏名や基礎疾患、服用している内服の残量や体調の変化などの聞き取り調査から始めました。又、その情報を共有するために、介入が必要な項目を、わかりやすくするための名簿の作成や、体育館内のマップ図の作成をしました。

避難所での生活に疲労が蓄積し、様々な不安や不満からストレスを抱え涙する方、私たちの介入を拒否される方もいらっしゃいました。2 次避難について家族との意見が合わず葛藤されている方など様々な問題を抱えておられました。

私たちの役割は避難所生活の中で健康被害を最小限にとどめるためにはどのような関わりをすれば良いのか、少しでも避難所で快適に過ごせるようにするためにはどうすれば良いのか、灯油の補給など、特定の方だけに負担がかからないようにするために協力者を一人一人確認し当番表を作成するなど、様々な方向から考え、他県から派遣された災害支援看護師と力を合わせ NPO 団体であるジャパンハートの看護師を中心に活動をしてきました。

この経験は、いつでも出来ることではありません。わずかな日数ではありましたが大きな学びを得ることが出来ました。この経験を心にしっかりとどめ、普通に生活出来るありがたさに感謝し 1 日も早い能登の復興を願うばかりです。



ラジオ体操の様子